

1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株 (日経平均) >



<米国株 (NYダウ) >



<円/ドル >



(注)チャートは過去1年

| | 単位 | 2023/12/31 | 2024/11/29 | 2024/12/13 | 過去3年高値 | | 過去3年安値 | |
|------|----|------------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| | | (前年末) | (前月末) | (前週末) | 水準 | 日付 | 水準 | 日付 |
| 日経平均 | 円 | 33,464.17 | 38,208.03 | 39,470.44 | 42,426.77 | 2024/7/11 | 24,681.74 | 2022/3/9 |
| NYダウ | ドル | 37,689.54 | 44,910.65 | 43,828.06 | 45,073.63 | 2024/12/4 | 28,660.94 | 2022/10/13 |
| 円/ドル | 円 | 141.04 | 149.77 | 153.65 | 161.95 | 2024/7/3 | 113.14 | 2021/12/17 |

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

~ 堅調な米ハイテク株高や中国景気の先行き不透明感が和らいだことを背景に上昇 ~

先週の日本株市場は、日経平均が379,27円 (+0.97%)、TOPIXが+19.34ポイント (+0.71%) となり、堅調な米ハイテク株高や中国景気の先行き不透明感が和らいだことを背景に上昇しました。業種別でみると、海運業、パルプ・紙、輸送用機器などの21業種が上昇した一方、医薬品、電気・ガス業、鉱業などの12業種が下落しました。

9日は、先々週末の米ハイテク株高を背景に小幅上昇となりました。10日は、中国共産党が来年の経済政策について「積極的な財政政策と適度な金融緩和を実施する」との考えを示したことを受け、中国景気の先行き不透明感が和らいだことや為替が円安進行したことなどから、中国関連銘柄や輸出関連銘柄などに買いが広がり続伸しました。11日は、翌週の日銀金融政策決定会合で追加利上げが実施されるとの観測により金融関連株が相場を下支えしたことから3日連続の上昇となりました。12日は、前日発表された米CPI (消費者物価指数) が市場予想と一致したことを受け、翌週のFOMC (米連邦公開市場委員会) で追加利下げが実施されるとの見方が強まったことから米ハイテク株は上昇し、その流れを受けた日本株市場も4日続伸となりました。週末13日は、前日の米株安の影響を受けて直近で上昇していた銘柄に売りが広がったことから下落して引けました。

3. 今週の主な予定

| 日程 | 曜日 | 国・地域 | 項目 | 期間 | 前週 |
|--------|-----|------|---------------------------|-------------------------|----------|
| 12月16日 | Mon | 日本 | 第3次産業活動指数 (前月比) | 10月 | ▲0.2% |
| | | | 機械受注 (船舶・電力を除く/前月比) | 10月 | ▲0.7% |
| | | 中国 | 鉱工業生産 (年初来/前年比) | 11月 | +5.8% |
| | | | 小売売上高 (年初来/前年比) | 11月 | +3.5% |
| | | 欧州 | ユーロ圏製造業PMI (購買担当者景気指数) | 12月 | 45.2 |
| | | | ユーロ圏サービス業PMI | 12月 | 49.5 |
| 12月17日 | Tue | 米国 | ユーロ圏製造業景気指数 | 12月 | 31.2 |
| | | | 製造業PMI | 12月 | 49.7 |
| | | ドイツ | サービス業PMI | 12月 | 56.1 |
| | | | IFO企業景況感指数 | 12月 | 85.7 |
| | | 米国 | ZEW期待指数 | 12月 | 7.4 |
| | | | 小売売上高 (除自動車) (前月比) | 11月 | +0.1% |
| 12月18日 | Wed | 米国 | 鉱工業生産 (前月比) | 11月 | ▲0.3% |
| | | | FOMC (18日まで) | | |
| | | 日本 | 貿易収支 | 11月 | ▲4.612億円 |
| | | | 日本銀行・金融政策決定会合 (19日まで) | | |
| | | 米国 | 住宅着工件数 | 11月 | 131.1万件 |
| | | | ファイナンス連銀製造業景況感指数 | 12月 | ▲5.5 |
| 12月19日 | Thu | 米国 | 景気先行指標総合指数 | 11月 | ▲0.4% |
| | | | 中古住宅販売件数 | 11月 | 396万件 |
| 12月20日 | Fri | 日本 | CPI (全国消費者物価指数) (除生鮮/前年比) | 11月 | +2.3% |
| | | | 米国 | PCE (個人消費支出) 価格指数 (前年比) | 11月 |

| | | | |
|----------|----|--------|--|
| 決算発表予定 他 | 国内 | 決算発表 : | 12/20 日本オラル |
| | 海外 | 決算発表 : | 12/16 マイロシテック/ロシー 12/19 アクセンチュア、フェテックス、ナイキ |

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ 日米の金融政策イベントを通過した安心感から週後半にかけてやや水準を切り上げる ~

今週の日本株市場は、日米の金融政策イベントを通過した安心感から週後半にかけてやや水準を切り上げるとみまます。今週17-18日にはFOMCが、18-19日には日銀金融政策決定会合が開催されます。FOMCでは、市場予想通り0.25%の利下げが実施されるとみまます。また、FOMC参加者が予想する2025年末の政策金利見通し (ドットチャート) の中央値は、前回9月から据え置きもしくは、米景気の堅調さを反映して若干上方修正される可能性があるともみまますが、既に市場は利下げペースの鈍化を織り込んでおり影響は限定的となり、FRB (米連邦準備理事会) が緩やかながらも利下げを継続するとの見方に変化は生じないとみまます。一方、日銀は一部で予想されている追加利上げを見送るとみまます。植田総裁の記者会見はややタカ派的な内容になる可能性はあるものの、利上げを急がない姿勢を示すことで株価にプラス材料に働くとみまます。先週末に発表された日銀短観では企業景況感が堅調であることが示されたことで業績の先行きに対する警戒感はやや和らいだこととみまます。週後半にかけては日米金融政策イベントを無難に通過した安心感から、やや水準を切り上げるとみまます。その他の注目材料として、日本では16日の機械受注、18日の貿易収支、20日のCPI、米国では16日の製造業/サービス業PMI、17日の小売売上高、18日の住宅着工件数、欧州では16日の製造業/サービス業PMI、ドイツでは17日のIFO企業景況感指数、中国では16日の小売売上高などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.
URL: <https://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会